

情勢報告（平成27年 9月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

サヤインゲン土壤消毒実証ほ設置



8月18日、JA土佐くろしおサヤインゲン生産者のほ場において土壤消毒剤(同一ほ場でピクリン錠剤または液剤使用)の実証を行いました。

サヤインゲンでは初めての取り組みということで、生産者は前日から適度な土壤水分を保つために散水し、被覆用のフィルムも計画どおりに準備してくれていました。

JA営農指導員、生産者と処理区の設定をもとに事前に内容を確認していたので、スムーズに薬剤処理が行えました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携を密にとり、基幹品目のサヤインゲンの収量・品質向上に取り組んでいきます。

養液ミョウガ排水処理装置実証成果検討会



8月21日、農業振興センター会議室で排水処理装置の実証成果検討会を開催し、JA土佐くろしお職員、ミョウガ部会役員、農業技術センター、工業技術センター担当者など20名が参加しました。

2業者から実証成果を報告してもらい、部会が定めた排水基準値を概ねクリアする装置であることが確認されました。長年の研究、開発と現地実証を経てようやく装置の完成となりました。

導入について価格や設置場所の確保など多くの課題がありますが、農業改良普及課は、販売額60億円まで発展したミョウガ栽培をさらに伸ばしていくため、産地の排水処理対策を継続して支援していきます。

JA土佐くろしおニラ部会決算総会



8月21日、JA土佐くろしお販売課で、ニラ部会の決算総会が開催され、生産者26名が参加しました。

農業改良普及課は、平成28園芸年度にJA営農課と取り組む有望品種や電照栽培試験内容について説明しました。また、施設栽培での環境測定の必要性について説明しました。参加者からは、電照栽培での増収効果に期待する声が聞かれました。

今後、JA営農指導員と連携して試験ほの調査を行い、結果を現地検討会で報告していきます。

集落営農塾（法人化編1）



9月4日、中土佐町大野見庁舎において、集落営農塾（以下、「塾」という）法人化編第1回を開催し、集落営農組織や中山間直接支払いの協定代表者など5名が参加しました。

農業改良普及課は、法人設立の準備から設立後の届け出までの流れを説明しました。

既に設立を検討している参加者から、想定している法人形態と役員構成の考え方について質問があり、具体的な検討を行う事ができました。

今後は、塾の開催と合わせて、現在設立を計画している組織について、定款の内容の確認、助言を行い、本年度内の設立を目指します。

J A土佐くろしお4 Hクラブ 新規就農者激励会



9月11日、道の駅「かわうその里すさき」の会議室において、新規就農者と若手農業者の交流を図る新規就農者激励会が開催され、新規就農者と4 Hクラブ員あわせて15名が参加しました。

この激励会は毎年4 Hクラブが開催し、J Aと振興センターが支援しているもので、新規就農者の紹介と激励が行われた後、農業改良普及課職員が「環境制御技術と植物生理」をテーマとした講演と、機械導入に関する補助事業の紹介を行いました。

施設園芸の最先端技術に関わる内容だけに、参加者の関心は高く、また地区や栽培品目を越えた若手農家同士の交流や、関係機関との意見交換も多く行われるなど、活発な激励会となりました。